特集2.

普段は知れない子どものホンネ
―私はこう感じています―

アンケートだけでは分からない子どもの思いや考えを知るために、それぞれの年代の子どもたちへインタビューを実施。インタビューは、子どもに前ページのアンケートを答えてもらった上で、その回答について詳しく教えてもらうという形でおこないました。

子どもがなにを感じ、どんなことで悩んでいるのか、普段知ることのできない子どもの心をのぞいてみましょう。

まず最初は、丁寧な受け答えで好青年という印象を受ける、高校3年生の男の子にインタビューをしました。

Q――人の目を気にしてしまうに「そう思う」と回答されていますが、どうしてですか？

A――自分の性格がそうだからです。自分に自信がないわけではありません。

Q――友達との関係は良好なようですが、友達とはどのような付き合いですか？

A――友達はサッカー部や元中学校の知り合いが多くて付き合いが長いです。気をつかう必要がない間柄です。

友達の誘いは、自分がムリなときは断ることもできます。

Q――お父さん、お母さんが自分のことをわかってくれていると回答されましたが、どうしてそう感じますか？

A――小さいときから両親はなんでもやりたいことをやらせてくれました。公文も、水泳も、サッカーも。習い事は強制されたことがないです。自分がやりたいものをさせてくれました。

公文は兄がやっていたので、その姿に憧れて自分からやりたいと言いました。公文は今でも続けています。

Q――失敗したとき、「恥ずかしい」とありますが、具体的なエピソードは何かありますか？

A――そうですね……一昨日、駅でICカード専用の改札なのに自分がもっている切符を突っ込んでしまって、その時はすごく恥ずかしかった。そんな感じです。

学校のテストなどで失敗したときもありますが、そのときは恥ずかしいとは思いませんでした。逆にわりきっていたと思います。そのテストの点数は4点でした。

でもそのときは「自分で勉強できてなかったから（点数が低くても）仕方がない」と思いました。友達に点数を聞かれたときは、ギャグで返せるくらいわりきっていたので。

Q――アンケートで自分の点数は15点とされていますが、その理由はなんですか？

A――今の自分はなんでも中途半端になっていて、満足できません。例えば、日常生活で早く起きると決めても、それをなかなか続けられなかったりする。だから点数を15点にしました。

自分で計画を立てても続けてやることが苦手。だからいろんなことが中途半端なんです。そんな自分が好きじゃない。もっとうまくできたんじゃないかと思うのです。

次は、地元のサッカークラブに通う小学校5・6年生の兄弟に話を聞きました。

Q――まず、人の目を気にして自分のやりたいことができないことはありますか？

兄――自分だけ答えが違ったらどうしようと思う。

自分の答えだけが違って、他の人たちは同じだと、そのときの視線が嫌やなぁ。気になる。にらまれてる気がするねん。

いつかは忘れたけど発表するときに一人だけ間違った子がおって、「えー」みたいな感じになった。それで泣いてしまった子もいるし。

弟――確かにいるな。

Q――二人ともサッカーを習っているそうだけど、学校とサッカークラブだったら、どっちが居心地いい？

兄――学校の方がいい。

弟――俺はどっちもかな。

兄――サッカークラブはしゃべりにくくて、それで一人ぼっちだから。まぁ少しはしゃべれる人もいるけど、クラブでは人数が少なくて、学校は人数が多いからいい。

弟――俺はどっちも友達やさしいから、どっちがいいか検討つかん。

Q――じゃあ、友達にされて嫌だったことはある？

兄――小3のときにモノを隠されて、むかついて「どこに隠した？」って聞いたら「知らん」とか言いよる。

やから仕返ししてたら「そんなん知らんし」って言われて。結局見つかったけど、先生に言って謝ってもらったりした。

でも、先生に言うと「チクリ」って周りに言われるのが嫌やからあんまり先生には言えへん。

もし、誰かが先生に言ってくれて友達が自分に謝っても、その後、あいつはチクリやって情報がまわされてんねん。俺が知らんうちに。だから先生には言いにくい。チクリって思われるから。

Q――なるほど、それは嫌だね。

次の質問だけど、お家の人に褒められたら嬉しい？

兄――嬉しいときもあれば「ふうん、そうなん」ってときもある。

父ちゃんと一緒にサッカーのリフティングを練習してて、いつも下手やけど、たまに何回も続くときがあって、そのときに「上手になったな」って言われた。

父ちゃんの中では上手になったかもしれんけど、自分の中では「そうなんかな」って。自分ではわからん。

Q――お父さんお母さんは自分のことをわかってくれてると思う？

兄――あまりそう思わない。話を聞いてくれることが少ない。

自分が怪我したとき、自分の言ってることは合ってるのに、聞いてくれへんときがあって、「それは違うやろ」「なんで」とか責めてきて言いづらくなんねん。

「なんで」って聞かれたら焦ってきて。同じことを何回も繰り返されたら早く答えなってなるけど答えれない。

弟――俺は理解してくれてると思う。歴史が好きで、お父さんとお城に行ったときに「これは誰々が、こんなことをして」って。それを聞いて「すごいな」って思う。

Q――自分のことがどれくらい好きか点数をつける質問について、どうしたら100点になる？

兄――国語の思考力がいつも70点以下やからそこがもうちょっとできたらいいかな。

あと、自分がもっとうまくなってサッカーのレギュラーになれば、メンバーともしゃべれる。レギュラー以外はバカにされるねん。チームはA・Bに分けられてて、Aはいいけど、Bだとバカにされる。

弟――国語なら漢字が苦手やな。あとは言葉遣いと、すぐ手を出してしまうことを減らしたいな。